

## 料理がつなぐ日・ハンガリーの交流 ～ハンガリー大使を囲む夕食会を開催～

平成25年5月  
フードバレー・シェフの会

平成25年2月22、23日、駐日ハンガリー特命全権大使のセルダハイ・イシュトヴァーン氏が北海道東部の十勝地方を訪れ、行政関係者や産業団体、大学関係者などと交流を深めました。

十勝地方は帯広市など1市 18 町村で構成する畑作、酪農・畜産が盛んな地域。同緯度にあるハンガリーとは気象条件や風景が酷似しています。

帯広の隣、幕別町の観光庭園「十勝ヒルズ」のレストランに昨年夏、ハンガリー大使館の前料理長、モルドヴァン・ヴィクトル氏が着任。ヴィクトル氏もメンバーの「フードバレー・シェフの会」がハンガリー料理フェアを開催することになり、シェフの会事務総長の林克彦さん(十勝毎日新聞社取締役)、梶原一生さん(丸勝常務)が外務省を通じてセルダハイ氏を招きました。帰国中の山本忠通・駐ハンガリー日本国特命全権大使も合流しました。

セルダハイ氏は22日、帯広市役所を表敬訪問し米沢則寿市長と懇談。「食文化を通じて交流できることは素晴らしい。大使館は全面的に応援するので自治体の交流も将来的に考えていただきたい」と話しました。その後、同市内で講演を行い一般市民、関係者など含め約120名が聴講しました。夜は十勝ヒルズで歓迎夕食会が開かれ、十勝総合振興局(北海道の出先機関)の橋本博行局長、十勝地区農協組合長会の有塚利宣会長、中川郁子衆院議員、米沢市長ら36名とハンガリー料理を囲んで懇親を深めました。

23日午前は「十勝ワイン」で有名な池田町の池田ワイン城を訪問。同町は白ワイン用のブドウ品種をハンガリーから導入した経緯があり、勝井勝丸町長からワインの歴史について説明を受け、十勝ワインを試飲しました。午後は帯広競馬場に移り、世界で唯一の「ばんえい競馬」(農用馬にソリを引かせる競馬)を見学、「駐日ハンガリー大使来勝記念杯」と題したレースでは、競馬の経験は多くないというセルダハイ氏自ら馬券を購入してレースを楽しみました。レース終了後はプレゼンターとして優勝騎手を表彰しました。最後は帯広畜産大学に立ち寄り、長澤秀行学長の案内で原虫病研究センターを視察。同大が年内にも聖イシュトヴァーン大学(ブダペスト)との間で学術・教育交流に関する協定を結ぶことが紹介されました。

セルダハイ氏は「冬の風景がハンガリーに似ていて非常に親しみを感じた。食材もハンガリーと共通するものが多く、料理はどれもおいしかった」「十勝とハンガリーの交流の基盤を築くことができ素晴らしい2日間となった。食文化、農業、学術・文化など交流の可能性はいろいろある。今回を出発点として、将来的には自治体同士の交流につながれば」と話していました。

フードバレー・シェフの会では、これからの観光シーズンに向けた共通メニュー「フードバレーコース」を作り、十勝を訪れる観光客に提供していきます。



フードバレー・シェフの会のメンバー＝前列＝をまじえての記念撮影(後列左から林克彦さん、米沢帯広市長、セルダヘイ大使、山本大使、梶原一生さん)

十勝毎日新聞社提供



ばんえい競馬「駐日ハンガリー大使来勝記念」優勝騎手との記念撮影

十勝毎日新聞社提供



池田ワイン城で説明を受けるセルダヘイ大使(左は池田町ブドウ・ブドウ酒研究所内藤所長)  
十勝毎日新聞社提供